



地域おこし協力隊
ながの 永野 龍典さん

一歩目

探究は対話と越境

①生徒との「対話」

「探究」を辞書的に言つと「答えがない物事への追求」。答えは一つではないからやり方はいろいろあつて当たり前、だから、誰かの一番を見つけていく。そして、その答えを言葉にして伝え、共感を得ることで、確からしい答えを導いていきます。

コーディネーターとして最も力が試される場面が、学生との探究課題に関する対話です。(前提として、勝山高校の探究は個人でテーマ設定する形式です)まず、テーマ設定の動機、目指したい世界観、既に得られた情報を聞き取ります。そして、話の構造を整理し、次に行うべ

②生徒に「越境経験」

き行動のイメージを共感的に伝えていきます。
この対話で頭の中が整理されていくと、暗雲が晴れたような安心した表情を返してもらえます。(私は話の整理に徹し、答えは生徒自身で見つけていきます)

もうひとつ、探究で大切にしたい事として「経験値」があります。誰だつて「やったこと無いからワカラナイ」のは当然。一歩目を踏み出す経験値を得ることで、ハードルを超えていくためのマインドを鍛えていく。専門的な言葉では、自分の枠を超えて挑戦する「越境経験」です。

今回話題にした「対話」と「越境」の機会は、地域の皆さまにもご協力を賜る場面が出てくると思いますので、一緒に勝山の未来の人材を育成するつもりでお付き合い合
いいただ
けました
ら幸いです。



勝高生との対話風景

勝山高校 コラム

「ひびきは空に」〜まこと真・誠・信〜

スポーツ・文化の秋 勝高生が活躍

福井県高等学校新人大会

【バドミントン部】男子学校対抗▼準優勝☆、女子学校対抗▼準優勝☆、女子シングルス▼準優勝 工谷羽音(☆)、女子ダブルス▼準優勝 工谷羽音・金山璃子ペア(☆)

※☆は1月開催の全国高校選抜大会北信越予選会(富山県)に出場

【陸上競技部】女子総合▼第3位、女子100m▼第1位 木下ゆき、女子200m▼第1位 木下ゆき、第3位 牧野樹理、男子やり投▼第3位 渡敦郎、女子やり投▼準優勝 松田美優(北信越新人大会 準優勝)、女子4×100m▼第3位 高野愛音・木下ゆき・齋藤菜々美・牧野樹理、女子4×400m▼第3位 木下ゆき・齋藤菜々美・山口優月・牧野樹理

【女子テニス部】女子ダブルス▼第3位 滝本莉佳・滝本莉彩ペア

【弓道部】個人女子▼第3位 吉田さゆい

第77回国民体育大会

女子4×100m▼準決勝進出 木下ゆき

福井県高等学校総合文化祭
音楽フェスティバル
郷土芸能部門

【日本文化部】最優秀賞

※来年開催の全国高校総文(鹿児島県)

校総文(鹿児島県)

に福井県代表として出場決定

福井県総合美術展

【芸術部】日本画部門▼福井県高文連賞入賞 横山結香、絵画造形部門▼入選 平瀬咲弥、吉田慎之介

これからの学びの鍵「探究」

今年度から新たに始まった探究の授業(総合的な探究の時間)では、1年生が先の見えない社会を生き抜くために必要な力を育んでいます。

11月には、個人の探究活動をより良くするために、福井県立大学、福井県および勝山市教育委員会の先生方を招聘して、ラウンドテーブルを実施しました。また、効果的な情報収集のため、福井新聞社の方からはインタビュー手法の講義を受けました。



ラウンドテーブル



福井勝山総合病院
院長補佐兼呼吸器内科部長 小澤 真二

高齢者の薬との付き合い方

高齢になると複数の病気を持つ人が多くなり、病気の数だけ処方される薬も多くなります。体の中に入った薬は肝臓で代謝分解されたり、腎臓から排泄されます。ところが高齢になると肝臓や腎臓の機能が老化して能力が落ちていきます。このため薬の分解や排泄までの時間がかかるようになり薬が効きすぎてしまうこともあります。

日本老年医学会などは、高齢者の薬の付き合い方として下欄のよう



薬の付き合い方

- ① 薬を飲み忘れたり、勝手にやめることによるトラブルも非常に多いので、自己判断による薬の中断は絶対に避けましょう。
- ② 病気に異なる医療機関にかかっている場合は、薬が重複したり増え過ぎないように、使っている薬を医師や薬剤師にサプリメントや市販薬も含めて正確に伝えましょう。
- ③ 医療機関は病気や健康状態を診てもらったところで、薬をもらいに行くところではありません。むやみに薬を欲しがらないようにしましょう。
- ④ 加齢とともに体の状態、薬の効き方が変化するので、高齢者には高齢者に適した処方方がされています。体は若い頃と同じだとは思わないことが大事です。
- ⑤ 薬は優先順位を覚えて最小限に抑えることが肝要です。かかりつけの医師に薬の量と数について相談してみましょう。

ふるさとを訪ねて

地域文化を掘り起こそう シリーズ「市内の小学校」 ⑤

市史編纂室 山田 雄造

鹿谷小学校

鹿谷小学校に統合されるまでに、この地域には4つの小学校が設立された。明治6年(1873)、矢戸口(後に本郷に移転)に鹿溪小学校が最も早く設立された。校区は矢戸口、西光寺、北西侯、本郷、東遅羽口、西遅羽口、杉俣の七区であった。翌々年の同9年に前記の西光寺、北西侯が分かれ北西侯に西侯小学校が出来たが、17年に再度鹿溪小学校に復帰している。

明治8年には保田に甲淵小学校が、保田・志田・発坂の3区で設立された。しかし13年に志田・発坂の2区で若宮小学校が設立されたが、これも18年には甲淵小学校に復帰している。

大正3年(1914)になり上記の学校は一本化され鹿谷小学校となる。本郷にあった鹿溪小学校に甲淵小学校が合併する形で設立された。昭和22年(1947)の新学制にともない本郷に鹿谷小学校が、同年、同区に鹿谷中学校も設立された。なお、

鹿谷中学校は同31年で幕を閉じ、翌年、荒土町伊波に北郷・鹿谷・荒土の3中学が合併し北部中学校が設立された。

小学校に話を戻し、明治9年、10年の鹿溪小学校と甲淵小学校の学齢児童数を参考までに紹介する。

鹿溪小学校はそれぞれ193人(男97・女96)、218人(男115・女103)、甲淵小学校はそれぞれ196人(男104・女92)、221人(男103・女118)であった。

令和4年(2022)現在の鹿谷小学校の在校生は63人です。写真は第15回高等科卒業生



鹿谷尋常小学校 第15回高等科卒業生

※前回(野向小学校)の記事で、牛ヶ原とあるのは牛ヶ谷の間違いです。お詫びして訂正します